

うたごよみ

曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳氏

俳句

末吉俳句会

老後とはごそごそ歩く冬の蠅

下太田 正子

懸命に漲る大樹黄葉狩り

原口 サエ子

大銀杏宿り木育て黄葉れり

宮路 生大子

大隅俳句会

入れし刃の身動きとれぬ南瓜かな

福村 よう子

縁側に弾む会話の菊日和

逆瀬川 節子

デザートに熟柿を一つ盗みかる

岩重 みどり

生き抜いて叔母の気丈や石路の花

大川 満

短歌

末吉短歌会

あの声音あの微笑みにあのしぐさ

この世にあなたの影みつからず

森岡 ちどり

風になり君は今ごろどのあたり

晩秋の雲面影に似て

宝蔵 弘二

晩秋の森の静けさ 温もりもつ

落葉踏みゆく足裏やさし

長倉 佳津子

大隅短歌会

届けられし冬瓜トロリと煮ゆる宵

残りし皮のみどりも清し

竹内 娃子

カメラにて夫の体内写しおり

これが悪さをすると医師の告ぐ

伊勢 タミ子

雲のない夕焼けよりも雲のある

夕焼けの方が私は好きだ

川田 サダ子

財部短歌会

選挙のたびに公約書き換える

百年の計なき貧しき政治

児玉 次雄

連れ立ちて秋風流るる草原に

憂きこと忘れて憩ふひととき

杉村 リカ

ひがんばな赤白負けじと群生し

何をかたるか照らす夕日に

井上 澄子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

極寒に 寒み服装しちよい

痩せ我慢 浜田 一好

食事なつ 具合が治い

肥満女房 桐野 奈世

悪り具合 思もたや下着

後前 森山 厚香

今日も来んち 友達の具合が

気いがかつ 古川 一幹

健し衆が 寒み日も頑張っ

玉を追っ 津留 群志

何故てか どしてん余い

婆ん葉 小倉 りんりん

大隅薩摩狂句会

気取つせえ 薄着をしたや

寒みも寒み 新屋 涼子

西郷どんに 相談かけたや

良か言わつ 新名 武士